



HyperFlex アップグレードのトラブルシューティング

- [ロックダウンモードの ESXi ホストまたは HyperFlex コントローラ](#) (1 ページ)
- [アップグレード中に HX Connect への接続が失われる](#) (2 ページ)
- [Hyperflex VIB のアップグレードに失敗しました](#) (2 ページ)
- [HyperFlex バージョン 4.5 へのアップグレードがエラー「/vmfs/volumes/hxmigrate を開けない」で失敗しました](#) (3 ページ)
- [HX Connect UCS サーバファームウェア 選択ドロップダウンにファームウェアバージョン 4.1 以降がリストされていない](#) (3 ページ)
- [クラスタ ノードをメンテナンス モードにする手順でアップグレードが失敗しました](#) (4 ページ)
- [vGPU が設定された VM を含むクラスタのメンテナンス モードが自動にならない](#) (5 ページ)

ロックダウンモードの ESXi ホストまたは HyperFlex コントローラ

説明

ESXi ホストがロックダウンモードの場合は、アップグレード前の検証が失敗し、エラーメッセージ `[auth cancel]` が表示されます。

アクション: ESXi ホストでロックダウンモードを無効にし、アップグレードが成功したら有効にします。

ロックダウンモードの有効化または無効化

HyperFlex コントローラ VM の使用

1. HX Connect にログインします。
2. 左側の [Navigation] ペインで、[System Overview] を選択します。

3. システムの概要] タブで、アクションドロップダウンリストからの有効化またはコントローラ VM へのアクセスを無効にする管理者として、SSH を使用します。

ESXi ホストの使用

1. vSphere Web クライアントにログインします。
2. vSphere Web Client のインベントリでホストを特定します。
3. [Manage] タブをクリックし、[Settings] をクリックします。
4. [System] で、[Security profile] を選択します。
5. [Lockdown Mode] パネルで、[Edit] をクリックします。
6. [ロックダウンモード (Lockdown Mode)] をクリックして、いずれかのロックダウンモード オプションを選択します。

アップグレード中に HX Connect への接続が失われる

説明：HX 3.5 (2g) から HX 4.0 (2a) へのアップグレード前の手順の後、HX 接続への接続が失われました。アップグレード中に、アップグレードのソースバージョンに期限切れの証明書がある場合、ブラウザはアップグレード前の手順を実行した後にユーザーをログアウトします。サーバの証明書が事前アップグレード後に変更されたため、これは承認された安全な動作を承認します。

アクション：ブラウザを更新し、再度ログインします。

Hyperflex VIB のアップグレードに失敗しました

説明：

HX 4.5 (1a) 以上への HXDP アップグレードのエラー：「*Hyperflex VIB* のアップグレードに失敗しました。理由：いくつかの (システム エラー) 。」

次のエラー ログが ESXi esxupdate.log ファイルに表示されます。

```
2020-12-01T11:59:22Z esxupdate: 333049: root: ERROR:
vmware.esximage.Errors.LiveInstallationError: ([], '([', "Error in running rm
/tardisks/scvmclie.v00:\nReturn code: 1\nOutput: rm: can't remove
\'/tardisks/scvmclie.v00\': Device or resource busy\n\nIt is not safe to continue. 完
了していないアップデートを破棄するには、ホストをただちに再起動してください。 」
```

アクション：次の手順に従って、getstctlvmlogs に対応するプロセスを強制終了し、アップグレードを再実行します。

1. root ログインで ESXi に SSH 接続します。
2. コマンド `ps -c | grep -e cisco -e springpath` を実行し、プロセス ID (PID) をメモします。例：

```
ps -c | grep -e cisco -e springpath  
112056 112056 sh /bin/sh /opt/springpath/support/getstctlvmlogs
```

3. コマンド `kill-9<PID from previous command>` を使用してプロセスを強制終了します。例：

```
kill -9 112056
```
4. HX Connect または Intersight に戻り、アップグレードを再試行します。問題がまだ続く場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

HyperFlex バージョン 4.5 へのアップグレードがエラー「/vmfs/volumes/hxmigrate を開けない」で失敗しました

説明

HyperFlex Data Platform を 4.5 より前のバージョンから 4.5 以降のバージョンにアップグレードできませんでした。

```
Error: stdout:, stderr: Could not open /vmfs/volumes/hxmigrate Error: No such file or directory.
```

条件 (Conditions)

HX Data Platform のアップグレードの一部として、自動データストアの移行中に ESXi ノードが手動で再起動されました。これは、1 つ以上の M4 コンバージド ノードまたは SD カードから起動する任意の世代のコンピューティング専用ノードを持つクラスタに影響を与える可能性があります。

アクション

アップグレードを再試行します。

HX Connect UCS サーバファームウェア 選択ドロップダウンにファームウェア バージョン 4.1 以降がリストされていない

説明

HX Connect UI から複合アップグレードを実行しようとする、UCS サーバファームウェアを選択するドロップダウンにバージョン 4.1 以降が表示されません。

アクション

UCS Manager にログインし、ファブリック インターコネク트에 UCS B および C ファームウェアバンドルをアップロードしたことを確認します。そうでない場合は、それらをアップロードし、アップグレードを再試行します。UCS B および C ファームウェア バンドルがファブリック インターコネク트에すでにアップロードされている場合は、以下の回避策を適用してアップグレードを続行します。

1. [アップグレード タイプの選択 (Select Upgrade Type)] ページで、[HX データ プラットフォーム (HX Data Platform)] のみを選択します。
2. 4.5 HXDP アップグレード パッケージを参照して選択します。
3. vCenter ログイン情報を入力します。
4. [アップグレード (Upgrade)] をクリックします。これにより、管理コンポーネントがブートストラップされます。UI 画面を更新します。
5. UI が更新されたら、複合アップグレード手順を試してください。これで、UCS サーバ ファームウェア バージョン 4.1 以降がドロップダウン メニューに表示されます。

クラスタノードをメンテナンスモードにする手順でアップグレードが失敗しました

説明

クラスタ ノードをメンテナンス モードにする手順の失敗は、vSwitch とポート グループでの MTU の不一致が原因で発生します。ノード拡張方式を使用して後で追加されたノードがクラスタにある場合、新しく追加されたノードの MTU は 9000 に設定され、他のノードは MTU 1500 に設定されます。



- (注) 以下の修復は、クラスタにクラスタ拡張の一部として追加された1つ以上のノードがあり、元のクラスタノードが 1500 の MTU に設定されている間に MTU が 9000 に設定されている場合にのみ適用されます。これがシナリオではない場合は、TAC にお問い合わせください。

アクション

- vCenter にログインします。
- すべてのノードで設定されている MTU 値を確認します。
- 最初に構築されたクラスタの一部であったノードの MTU が 1500 に設定されており、他の一部のノード (クラスタ拡張の一部として後で追加されたノード) の MTU が 9000 に設定されている場合は、そのようなすべてのノードの MTU を 1500 に変更します。

- アップグレードを再試行します。

vGPU が設定された VM を含むクラスタのメンテナンスモードが自動にならない

説明

vGPU が設定された VM を含むクラスタの場合、DRS が完全に有効になっていても、メンテナンスモードは自動的に開始しません。ローリングアップグレード時には、これらの VM を手動で処理して、各 ESXi ホストがメンテナンスモードに入り、適切なタイミングでアップグレードを続行できるようにする必要があります。

アクション

次のいずれかの方法を使用して続行します。

1. vGPU が設定された VM について、クラスタ内の別の ESXi ホストに、手動で vMotion の操作を行います。
2. vGPU が設定された VM の電源を一時的にオフにします。ESXi ホストが再起動し、クラスタに再参加したら、再度電源をオンにすることができます。



(注) これは DRS ホストの退避に関する制限で、ドキュメント化されています。[DRS が vGPU 対応の VM を自動的に移行しない \(66813\)](#) を参照してください。

vGPU が設定された VM を含むクラスタのメンテナンス モードが自動にならない